

SEMMOTO NEWSLETTER

2023.12.15. No. 9

CONTENTS

- ◆ 2023年度新規奨学生認定授与式
- ◆ 財団同窓生交流会
- ◆ 2023年度第6期奨学生の募集状況
- ◆ リーダーシップ交流会



2023年度新規奨学生認定証授与式にて



公益財団法人

千本財団

Frances and Sachio Semmoto
Foundation

■2023年度新規奨学生認定証授与式

2023年11月18日（土）に2023年度の新規奨学生認定証授与式を都内会場にて開催しました。2022年度は新型コロナウイルスの感染拡大状況から、日本の大学に合格したのにもかかわらず半年以上日本へ入国することができなかった大学在学学生を優先して1年間支援したため、従来の日本語学校からの募集は行いませんでした。今年は従来通り日本語学校からの募集となり、2年ぶりに日本語学校生の奨学生の受け入れとなりました。新たに認定された2名の奨学生の他、千本代表理事、小林業務執行理事、事務局スタッフ2名が参加しました。認定証授与式の後は懇親会を開催し、出席者それぞれが自己紹介を行い歓談しました。



リー リューイン（写真左）

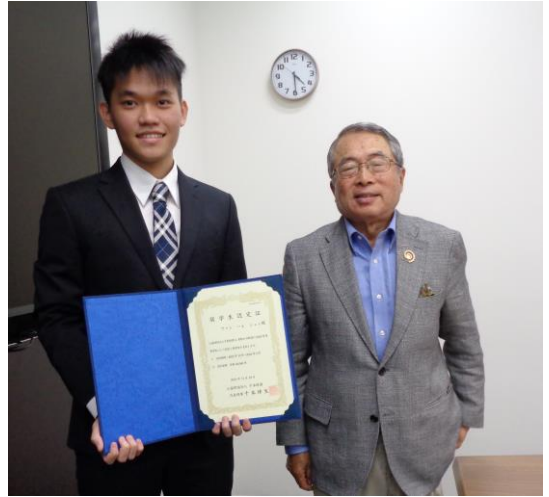
アジア学生文化協会 マレーシア出身

ファン ハオ シェン（写真右）

大原日本語学院 マレーシア出身



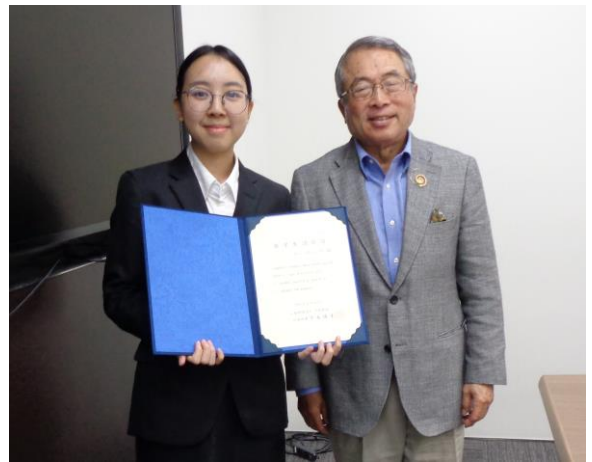
認定証の授与（1）



認定証の授与（2）



認定証の授与（3）



認定証の授与（4）



懇親会の様子（1）



懇親会の様子（2）

□新しい奨学生（第6期生）のご紹介



WONG HAO XUAN/ファン ハオ シェン（マレーシア） 大原日本語学院

将来は、人間にかわって、危険な作業を行うことができる工業用ロボットを作りたいと考えています。工業用ロボットの開発には、制御が重要なため、日本の大学で機械制御を中心に機械工学について学びたいと思います。大学卒業後は、大学院に進み、ロボットの研究分野における専門知識を深めて、将来は日本のメーカーで、自分が得た知識を活かし、加工、組み立て、搬送ができるような工業用ロボットを作りたいです。



LEE LIUYIN/リー リューイン（マレーシア） アジア学生文化協会

私は創薬について勉強したいです。創薬についてあらゆることを学び、人々に生きる希望を与えられる薬をつくりたいです。大学卒業後は、日本の製薬会社に就職して、専門知識を生かした仕事をしたいです。

■財団同窓生交流会

2023年11月18日（土）に財団同窓生との交流会を都内会場にて開催しました。千本財団の奨学生は1期生が2023年3月に満期終了となったため、同窓生との交流会は財団として初めてでした。参加者は1期生2名、小林業務執行理事、事務局2名で、楽しく時間を過ごしました。同窓生2名が元気で活躍している様子を見ることができたことが何よりでした。



左から2人目：VU KIM QUANGさん（1期生：ベトナム）
左から3人目：TAN ZU SHENGさん（1期生：マレーシア）

■2023年度第6期奨学生の募集状況

当財団では指定の日本語学校に所属し、翌年4月より日本の四年制大学への進学を目指す留学生を募集しております。しかし、昨年度は新型コロナウイルスの感染拡大状況から、日本語学校からの募集が困難であり、日本の大学に合格したにもかかわらず半年以上日本へ入国することができなかった留学生を優先して支援したため、日本語学校からの募集は2年ぶりとなりました。本年度の募集状況は下記の通りです。

- 書類応募者数：9名（うち、男性5名、女性4名）
- 出身国

出身国	男性		女性		合計
	書類合格者	書類不合格者	書類合格者	書類不合格者	
マレーシア	2	1	2	0	5
ベトナム	1	0	1	0	2
ミャンマー	1	0	0	0	1
インドネシア	0	0	0	1	1
合計	4	1	3	1	9

- 出願のあった日本語学校一覧

日本語学校名	書類合格者	書類不合格者	合計
アジア学生文化協会	2	0	2
大原日本語学院	2	0	2
千駄ヶ谷日本語学校	2	0	2
メロス言語学院	1	0	1
JET日本語学校	0	1	1
東京国際大学附属日本語学校	0	1	1
合計	7	2	9

■リーダーシップ交流会

2023年9月23日（日）13:30～16:15に当財団評議員で元駐米大使である藤崎一郎氏をお招きし、奨学生に対してリーダーシップ交流会を開催しました。藤崎氏、東京近郊に在住の奨学生7名及び事務局2名は都内会場で、遠方在住の奨学生6名はオンラインで出席しました。藤崎氏からリーダーが持つべき「あいうえお」についてお話があった後、質疑応答及びグループディスカッションが行われました。奨学生の藤崎氏への質問は日本の文化や政治、歴史に関わる問題など多岐に渡り、終了予定時間を超えた熱いものとなりました。各方面に博識でいらっしゃる藤崎氏からざっくばらんな回答を得られた奨学生は大きな学びを得ることができました。また、交流会終了後に、会場近くで行われていた当財団評議員で人間国宝の大角幸枝氏の個展を対面参加の奨学生と事務局で見に行きました。精彩に富んだ素晴らしい作品を拝見することができ、充実した1日となりました。



□リーダーシップ交流会 感想

CHEAH JIA YI (マレーシア)

東京農業大学 生命科学部 分子生命化学科 4年

リーダーシップ交流会に参加して「今若い人に考えて欲しいこと」の講演を聞き、とても心に残りました。リーダーはどんな時でも焦りを顔に出してはいけませんという言葉が特に印象的でした。自分もそうありたいと強く感じますが事件が発生するとどうしても顔に出るのでこれからは周りの方々がどのように反応しているかを観察し顔に出さないように頑張っていきたいです。また、質疑応答の時間で自分の視野をすごく広げることができました。日本の文化や歴史にはずっと興味を持っていましたが、今までは英語のドキュメンタリーを見ていて自分では理解できないところもありました。それは第二次世界大戦と戦後の教育についての日本の態度でした。出身地のマレーシアのペナン州は日本とは違い国王がいないので日本の国民の天皇陛下に対する気持ちや態度が日本の歴史教育に繋がっているとは思いませんでしたが答えをいただき、新たな視点から考えることができました。それだけではなく、他の奨学生からの質問とその答えを聞いてとても勉強になりました。

LIM AN QI (マレーシア)

京都精華大学 マンガ学部 アニメーション学科 4年

先日のリーダーシップ交流会での藤崎さんのプレゼンテーションは非常に印象的でした。彼のスライドは簡潔かつユーモアに富んでおり、その内容は私の頭に強く刻まれました。私は現在、卒業制作のチームのリーダーを務めており、この交流会から得た教訓を実践して、より頼もしいリーダーになるため、努力したいと思います。

また、この交流会では様々な意見や考えを気軽に共有し、日本語だけでなく英語でもコミュニケーションを図る機会がありました。マレーシアでは言語を混ぜて交流する時が多くて、このように二つの言語で自由に交流できる交流会はすごく親切だと感じました。これは私にとって非常に貴重な体験で、言語を越えた交流の重要性も再認識しました。

さらに、藤崎一郎理事長の巻頭論文集も印象的でした。その中で物事の分析や外交官としての独自の視点から書かれたエピソードが詰まっており、私たちができることやすべきことについて考えさせられました。この貴重な学習機会を提供していただき、心から感謝申し上げます。

MELLISA ARDELIA (インドネシア)

東京理科大学 理学部第一部 化学科 4年

このように、意見のまとまったお方とフランクに話すのはすごくいい勉強になりました。日本人の友達とも、様々なテーマに関して、聞くなり、一緒に話し合いするなりすることがありますが、お互いに色々知らず、世の中をまだ見て来なかった身同士の話し合いであるため、何の結論にも至らないことが多いです。ずっと、交流会でやったように、自分と違う立場、違う日本、日本と海外の関わりを見てきた人の意見を聞きたかったのですが、中々できないことです。

様々な社会問題に関して元々関心がありましたが、理系を専門にしていることもあり、ただ単に知識、理解が足りないことが多いと思います。そこで、いつも、質問することを躊躇っていました。「このような質問は、ただ私の知識が不足しているだけで、実は質問する意味、価値のない質問なのでは」とか、「このようなことを聞くのは、相手に失礼ではないか、気に触るのではないか」と考えながら、自分がずっと知りたかった問題に関してはいつも一人だけで疑問に思い、口にすることなく終わってしまうことが多々ありました。しかし、交流会の場では、そのような雰囲気もだんだん感じなくなり、自由に質問することができたのが、とても嬉しいことでした。

NGUYEN BAO HUNG (ベトナム)
同志社大学 商学部 商学科 4年

この度は大変有意義な講演をしていただき、誠にありがとうございました。『まだ間に合う』の「アイウエオ」をもう一回強調してくださったことによって、その重要性がさらにわかり、これからもそれを続けて実践していきます。

貴重なアドバイスを多くいただきましたが、その中で「あわてず あせらず」が一番印象に残っており、これは私の最も大きな欠点でもあると思います。私自身はバイトリーターであり、後輩の教育、指導をしています。ところが、想定外のことが起きると冷静に考えて行動することがまだできていません。最初は問題を解決することばかりに目を向け、後輩の皆さんが自分の慌てる姿を見てどう考えるか全然気にしませんでした。しかし、先生の講演を聞いて、やはり皆の頼りであるリーダーが慌てる時、他のメンバーやチーム全体に悪影響を及ぼし、信頼を失われる恐れがあると気づきました。これからは様々なことを経験し、この欠点の克服に取り組んでいきます。

また、リーダーシップのみならず、日本の社会問題と外交の問題、藤崎先生のお考えを聞くことができ、大変勉強になります。若者の政治離れが深刻になっていますが、いつか国をリードする立場になるのは言うまでもないことです。そのため、国の課題、世界の状況を常に把握し、自分なりの考えと主張を持った方がいいと私も思っております。先生の著書と論文を読んで、さらに今回の講演を通じて話を直接聞くことによって、自分自身の考えをもう一回見直しして、整理することができました。

私は卒業するまでに半年しか残っておらず、正直に言えば大変不安でした。社会人になると環境が一気に変化し、それに適応するまでは様々な困難に直面すると考えたからです。しかし、本日の講演を聞いた後、先生からいただいたアドバイス、学びを活かせばきっと乗り越えられると確信しています。

重ねてお礼申し上げます。

HA THI TRA MY (ベトナム)
東洋大学 経済学部 国際経済学科 3年

今回のリーダーシップ交流会を開いていただき誠にありがとうございました。交流会では、藤崎先生から多くの貴重なお話を聞く機会を得て、大変勉強になりました。特に、リーダーシップに不可欠な「あいいうえお」が強く印象に残っています。これは社会で信頼されてリーダーを任される人としての大切な要素だと考えます。その中でも、英語力が最も強調され、先生のお話を通じて英語学習の重要性と必要性をより理解できました。将来、国際的な人材としてのキャリアを築きたい私は、今後も英語のスキル向上に注力し、海外の友人と円滑にコミュニケーションを取れるように努力したいと思っています。

また、配布された資料を通じて、さまざまな国のリーダーたちのストーリーに興味深く感じました。疑問点を調べたり先生に聞いたりすることで、政治や歴史などの知識を深める機会となりました。交流会の際にも、藤崎先生や他の奨学生の意見を聞いたことは、私の視野を広げる大きな経験にもなりました。今後のリーダーシップの経験に、交流会で得た洞察や学びを活かしたいと考えています。また、今度もさまざまなお話や質問を伺う機会があれば、是非参加させていただきたいと思います。

LEON ADITYO HARTANTO (インドネシア)

明治大学 理工学部 応用化学科 3年

リーダーシップ交流会は大変興味深いイベントでした。藤崎先生はある質問に対して様々な視点から答えたため、とても勉強になりました。さらに、英語と日本語だけではなく、フランス語やインドネシア語が話せることに驚きました。正直、私は政治や政府のことにあまり興味がないので、文化的な質問ばかりをしました。その質問に対して思っていなかった答えをもらい、よい経験でした。さらに、リーダーとしての「あいうえお」は具体的で、世界のリーダーたちが持っている素質でした。

藤崎先生は千本さんと異なる考え方を持っていると思います。しかし、二人ともはそれぞれの業界でトップだと思います。また、二人はリーダーですが、タイプが異なると思っています。藤崎先生の方がリーダーとして物事をより慎重に検討すると思っています。今回のリーダーシップ交流会で普段と異なる環境で、違う視点から様々なことを学べてとても良かったと思っています。

他の奨学生からでも面白い質問が聞けて、それに対して藤崎先生の答えはとても素晴らしかったです。また、同じ千本財団の奨学生ですが、全く別の考え方を持っている人もいたり、リーダーシップ交流会全体において、takeawayできるものがとても多く、この機会に感謝しています。

MAHESA PAMUNGKAS SUGIHARTO (インドネシア)

明治大学 経営学部 経営学科 3年

今回のリーダーシップ交流会は非常に勉強になった事が多かったです。ゼミ活動中で移動しながら参加しましたが、聞いているとやはり内容の濃い交流会でした。プレゼン発表が端的に完結していたところが印象に残りました。言いたい事を後回しにせず、すぐ結論から言う所が凄いなと思いました。これからプレゼンだったりグループディスカッションだったり、意見が飛びかうような様々な場面で私もそれを真似しようと考えています。ほかにはリーダーの「アイウエオ」が勉強になりました。実はその「アイウエオ」の中で、「あ」の焦らない慌てないと、「い」の威張らないは常にやっていました。個人的に非常に共感できるのは「え」の英語は今や世界語であること、耳口目手の順番で学ぶことでした。言語を学ぶ時に大切なのは言葉を聞いて、そこからその言葉を口に出して、口に出してから文字を見て、それを手で書くという順番だと、気づかされています。これ知らず自然と私は日本語をそうやって学んできたし、私の母語であるインドネシア語でも母と父が言った言葉を私が耳で聞いて、そこから自分の口でそれを言うという形だったので共感しています。逆に勉強してきたことのある言語でそんなにペラペラと話せない言語は、この順番で学んできていなかったからこそ下手だなと改めて思いました。貴重な時間や知識をありがとうございました。これからもよろしくお願い致します。

ALFRED NGU YOK FEI (マレーシア)

法政大学 生命科学部 応用植物科学科 3年

今回藤崎さんとお目にかかり、私は藤崎さんに対する最も頭に残るイメージは思いついた意見を率直に話す方でした。

藤崎さんは多忙の中でスライドを用意して実用的なアドバイスを私たちに教えていただけたことに感謝します。藤崎さんがおっしゃったアドバイスは全部自身の成長に密接につながると強く思いました。アドバイスの中で特に共感したのは焦らないと疑うことです。私はすこしでも焦った時に「どうしよう」と口に出す癖があります。確かにあるグループのメンバーの立場になって考えると、リーダーはどれだけ人望や実績があっても、土壇場で「どうしよう」と口に出したらグループ全体がまともなくなります。私はなぜこの癖を直さないといけないかと考えると、「どうしよう」と言ったらさらに焦って思考が止まり、現実と向き合う勇気を失いかねないからなんです。そして藤崎さんのおっしゃった「焦っても平気だと見せかけるリーダーがたくさんいて、それでなんとかなる」という話が勉強になりました。

CHIN TECK CHING (マレーシア)
茨城大学 工学部 物質科学工学科 3年

リーダーシップ交流会に参加した際、藤崎さんが示す経験や知識、そして皆さんへの気配りにあふれた話し方に深い敬意を感じるようになりました。私は実際、政治や社会の変動に詳しくないのですが、藤崎さんが出された事前課題を通して、多くの興味深い論文に触れることができ、それらの内容を深く考えるきっかけを得られました。また、藤崎さんや様々な背景を持つ奨学生たちとの交流は、異なる視点や考え方との出会いをもたらしてくれ、自分の思考を再評価する機会を提供してくれました。特に、奨学生たちが質問タイムでは、私も共感をし、同じものを見ても違う視点があることに気付きました。

さらに、藤崎さんが紹介したリーダーシップの「あいうえお」には、多くの気づきを得ることができました。自分の欠点や足りていない部分が明確になり、これを機に自己認識や自己啓発の大切さを再認識しました。交流会の中で具体的な疑問に対し、実践的なアドバイスやフィードバックを受けることができ、これが大変有益でした。藤崎さんの書籍も参考に、今後は自身の成長を目指していきたいと感じています。

NATHANAEL IAN GUNADI (インドネシア)
青山学院大学 理工学部 情報テクノロジー学科 2年

とてもためになりました。私が頑張らないといけないところいくつか気づきました。特にポーカークフェイスを保つこと。私の顔を見ると、その時に考えていることがすぐわかると思います。素直に生きるという教育を受けたせいもあるかもしれませんが、自分の感情を隠すのが非常に難しいです。しかし、これは確かに交渉をしているときに有利ではないと思います。

目上の人を評価するのは日本文化では非常に失礼だとしていますが、今回だけ許していただきたいです。実は私が特に感動したのは先日の藤崎さんの行動でした。両親や学校から「発表や質問をする時すぐメインポイントに行くのが一番大事だ」と何回も教わったことがあります。そうしない人に対してお父さんやおじさんが怒ってしまうところを見たこともあります。しかし、藤崎さんが冷静に返事することができ、感動しました。逆に私はその時怒りそうでその感情が顔にも出てしまったと思います。完璧な人はいないから誰かをロールモデルにするよりも自分なりのリーダーになれとおっしゃいましたが、少しの間でも先日の藤崎さんをロールモデルにしたいと思います。

LEE ZEE YEEN (マレーシア)
長崎大学 多文化社会学部 多文化社会学科 2年

まず最初に、藤崎氏と財団の皆さんにお詫び申し上げます。インターネット接続とマイクの問題が発生し、会議から度々退出し、質問に適切にお答えできなかったこと、本当に申し訳ございませんでした。リーダーシップ交流会に参加し、多くの貴重な教訓を得ることができました。

リーダーシップ交流会で学んだこれらのポイントは、私自身にとって非常に深い印象を与えました。特に「慌てない」ことは、私が一番必要としているスキルであると感じました。常に予期せぬ状況に直面すると、感情をコントロールできず、緊張してしまい、手足が震えてしまうことがあります。しかし、優れたリーダーとして振る舞うためには、挑戦的な状況やストレスフルな瞬間にも冷静に判断し、安定感を持つことが極めて重要だと理解しました。

また、藤崎さんがデリケートな質問に対しても、冷静で丁寧な態度で受け答えし、質問を適切に理解し、時間をかけて回答を提供してくれたことに感銘を受けました。これらのポジティブな特質は、彼のリーダーシップスタイルの一部であることを示唆しており、私自身も同様のリーダーシップの姿勢を模範とし、チームのメンバーや相手に対して同じような配慮を示したいと思います。

LAI QING LONG (マレーシア)
東洋大学 国際学部 国際地域学科 2年

今回の藤崎さんの講演は非常にためになる内容でした。特に「社会におけるあいうえお」の説明が印象深く残っています。リーダーにとって大事なことは慌てず、威張らないことだと教えていただきました。その理由として、リーダー自身が慌てれば部下はさらに焦ってしまうため、冷静さを失ってはいけないことがわかりました。また、人望を得るには謙虚な姿勢が重要だとのお話も、私にとって大切な教訓となりました。藤崎さんの教えは、私のこれからの人生に響くほど重要なアドバイスだと感じました。

英語学習の重要性についてのお話も、大変参考になりました。英語は世界共通語として必須のスキルであり、しっかり習得すべきだと感じました。ですから、今後は藤崎さんのおすすめ通りたくさん英語のニュースや報道などを見ていきたいと思います。グローバル社会で活躍するためには英語力が不可欠であることを再認識しました。

そして、藤崎さんがみんなの質問をご丁寧に回答してくれたおかげで、国際情勢や社会問題などに関する知識を深めることができました。藤崎さんのご経験と見識に基づくお話は、私にとって大変有意義な時間となりました。今後の人生と仕事において、藤崎さんの教えを大切に実践していきたいと思います。今回の講演は誠にありがとうございました。

ANDREW LIM KAR JUN (マレーシア)
山形大学 工学部 情報・エレクトロニクス学科 2年

藤崎さんの講演を聞いて、リーダーとしてのアイウエオを学びました。藤崎さんの話から、リーダーシップについてさらに理解が深まりました。具体的には、リーダーとしてのアイウエオの中の「ア」と「エ」が印象的でした。

まず、「ア」について語りたいと思います。重要なイベントや予想外のことにあっても、焦らないまたは慌てないことが大切だと学びました。なぜ「ア」が印象的かというと、自分は昔から重要なイベントにあう度に、緊張しすぎて、本当の実力が発揮できず、結局失敗した例が数えきれないからです。そのため、今後の自分がまた失敗しないように、将来リーダーになっても部下をうまく導くように、藤崎さんの教えは忘れません。

また、「エ」についても語りたいと思います。藤崎さんの講演から、世界語である英語の大切さを知りました。100年以内では英語が他の言語に取ってかわる心配はないですから、国をこえて友人とコミュニケーションをとるためにも、仕事のためにも学んで損がないです。これからも、日本語の勉強をしながら、英語の勉強にも同じぐらいの力を入れたいと思います。

最後に、藤崎さんが私たちの質問を丁寧に回答してくれたおかげで、国際情勢についてさらに理解が深まりました。特に日本の借金問題について、自分の疑問が解かれました。この経験は必ず将来の自分のためになると思います。今回の講演は誠にありがとうございました。